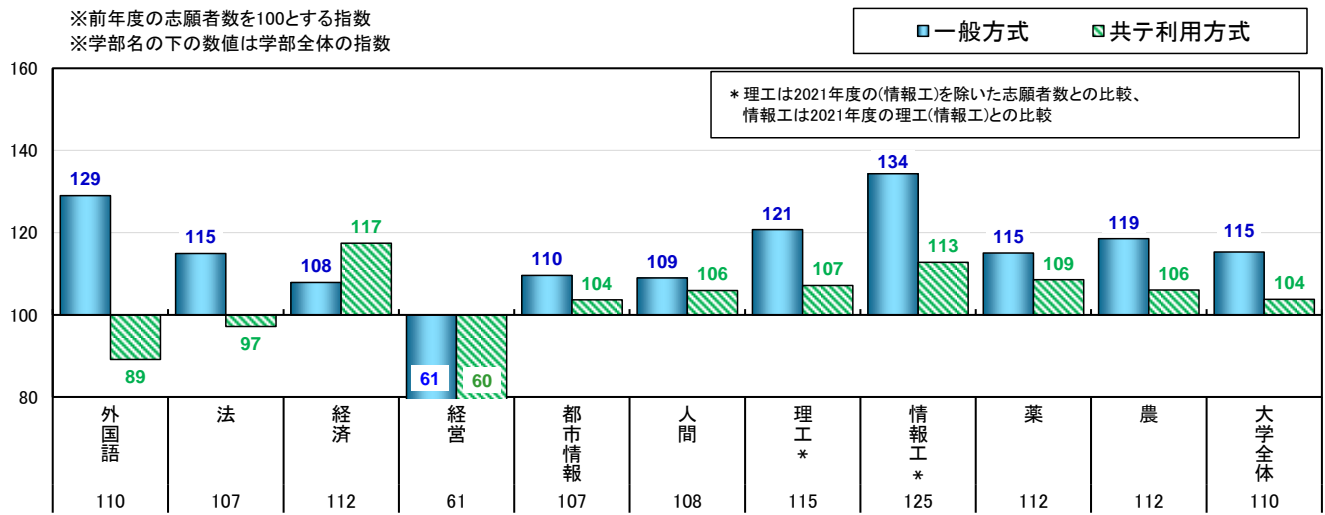


名城大：大学全体では3年ぶりの増加、10学部中9学部で増加

一般：+3,076人 共テ：+593人



**主な入試変更点**

学部改組：理工(情報工)→情報工(情報工)  
 選抜方法：外国語(国際英語)…<一般・傾斜配点型K方式>を新規実施：①一般・3教科型A方式の結果を利用  
 ②出願時に外国語学部のA方式の受験必須  
 理工…<一般・傾斜配点型K方式>を新規実施：①一般・3教科型A方式の結果を利用  
 ②出願時に理工学部もしくは情報工学部のA方式の受験必須  
 ※1日程につき1学部1学科出願可 ※A方式と異なる学科の併願可  
 <共テ・前期C方式5教科6科目型>を新規実施：国+歴公+数2+理・理基2+外  
 ※歴公：日Bor世Bor現 ※理は高得点1科目採用  
 <一般・M方式>廃止  
 入試科目：理工(数除く)<一般・3教科型B方式>…〔(数or理or外)→2〕→数+理+外 ※2教科型から3教科型へ  
 理工(数)<一般・3教科型B方式>…数+(理or外)→数+理+外 ※2教科型から3教科型へ  
 募集人員：都市情報…<一般・3教科型A方式>60人→70人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,669人(110)の増加で3年ぶりの増加。学部別では、前年度の旧理工(情報工)を除いた志願者数との比較の理工(115)、前年度の旧理工(情報工)との比較の情報工(125)を含め、10学部中9学部で増加、減少は大幅減少の経営(61)のみ。方式別では、一般方式は3,076人(115)の大幅増加。外国語、理工、情報工で新規導入の<傾斜配点型K方式>の増加が大きかった。共通テスト利用方式は593人(104)のやや増加で3年ぶりの増加。

- <一般方式>**
- 外国語(129)**は、<傾斜配点型K方式>の新規導入もあり、大幅増加。4年ぶりの増加となった。<傾斜配点型K方式>を除いても(105)のやや増加。方式別では、<3教科型A方式>(117)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、<2教科型B方式>(70)は大幅減少で3年連続減少。
  - 法(115)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。方式別では、<3教科型A方式>(113)は増加、<2教科型B方式>(120)は大幅増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
  - 経済(108)**は、2年連続減少の反動で増加。学科別では、(経済)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(産業社会)(79)は4年連続大幅減少。
  - 経営(61)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。学科別では、(国際経営)(51)、(経営)(62)と2学科とも大幅減少。
  - 都市情報(110)**は、前年度大幅増加に引き続き、2年連続増加。志願者数は950人を上回った。一方で、募集人員(募集人員の前年度対比指数113)は増加で、志願倍率は11.6倍→11.3倍にダウン。方式別では、<3教科型A方式>(114)は増加、<2教科型B方式>(100)は前年度と同じ志願者数だった。
  - 人間(109)**は、前年度大幅減少の反動で増加だが、志願者数は1,000人には届かなかった。方式別では、<3教科型A方式>(111)は増加、<2教科型B方式>(101)は微増。
  - 理工(121)**は、前年度の旧(情報工)を除いた志願者数との比較で大幅増加。<傾斜配点型K方式>の新規導入も影響した。学科別では、10学科中8学科で増加。更に、増加した8学科中、(数)(108)を除いた7学科は大幅増加で、特に(材料工)(173)は激増。減少の学科は、(環境創造工)(94)、(電気電子工)(96)のみで、いずれもやや減少。方式別では、<3教科型A方式>(112)は増加。一方で、科目負担の増えた<3教科型B方式>(82)は2年連続大幅減少。
  - 情報工(134)**は、旧理工(情報工)の改組による新設だが、旧理工(情報工)との比較では募集人員が10人(14%)増加したが、2年連続増加となる大幅増加で、志願倍率も29.0倍→34.1倍にアップ。
  - 薬(115)**は、系統への人気の高まりもあり、大幅増加で3年連続増加。方式別では、<3教科型B方式>(125)は大幅増加、<3教科型A方式>(111)は増加でいずれも3年連続増加。
  - 農(119)**は、4年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科とも大幅増加。

- <共通テスト利用方式>**
- 外国語(89)**は、4年連続減少。方式別では、<共テ前期・C方式>(75)の大幅減少が目立った。
  - 法(97)**は、やや減少で3年連続減少。方式別では、<共テ後期・C方式>(46)は半減以下、<共テ前期・C方式>(75)は大幅減

- 少。〈共テ併用・F方式〉(113)のみ増加。
- 経済(117)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(産業社会)(125)、(経済)(116)と2学科とも大幅増加。
  - 経営(60)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による大幅な増減が継続。(経営)(60)、(国際経営)(61)と2学科とも大幅減少。
  - 都市情報(104)**は、やや増加で2年連続増加。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(115)は前年度減少の反動で大幅増加。
  - 人間(106)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。方式別では、〈共テ併用・F方式〉(110)は前年度大幅減少の反動で増加。〈共テ後期・C方式〉(89)は4人の減少だが、6年連続減少。
  - 理工(107)**は、前年度の旧(情報工)を除いた比較でやや増加。学科別では、10学科中7学科で増加。特に、(材料機能工)(133)、(交通機械工)(125)、(社会基盤デザイン工)(122)、(応用化)(121)は大幅増加。減少の3学科は、(電気電子工)(85)は大幅減少、(数)(92)、(環境創造工)(92)は減少。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(126)は、〈5教科6科目型〉の新設もあり、大幅増加。共通テスト受験後の出願の〈共テ後期・C方式〉(115)は2年連続大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(100)は前年度並。
  - 情報工(113)**は、旧理工(情報工)の改組で新設された学部だが、旧理工(情報工)との比較で2年連続増加。方式別では、〈共テ前期・C方式〉(123)は大幅増加。〈共テ後期・C方式〉(124)も大幅増加で、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(109)は増加。
  - 薬(109)**は、増加。方式別では、〈共テ後期・C方式〉(186)は激増で3年連続増加。共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。〈共テ併用・F方式〉(109)は3年連続増加、〈共テ前期・C方式〉(102)は前年度大幅減少の反動は小さく、微増。
  - 農(106)**は、2年連続減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、(生物資源)(109)は2年連続減少の反動で増加、(応用生物化)(108)は2年連続増加。一方で、(生物環境科学)(99)は微減だが、前年度の大幅減少に引き続き、2年連続減少。